

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

03.09.2004

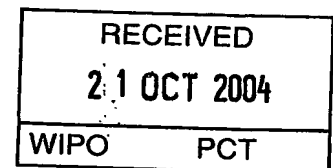
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2003年 7月30日

出 願 番 号  
Application Number: 特願2003-203699  
[ST. 10/C]: [JP2003-203699]

出 願 人  
Applicant(s): 大日本インキ化学工業株式会社

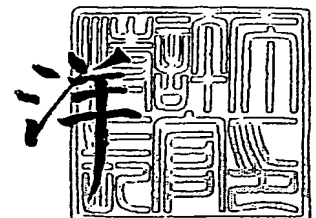


PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年10月 7日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川



出証番号 出証特2004-3090186

【書類名】 特許願  
【整理番号】 PX030187  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 A61K 31/47  
C07D215/00

## 【発明者】

【住所又は居所】 千葉県佐倉市六崎 826-18

【氏名】 高垣 秀次

## 【発明者】

【住所又は居所】 千葉県四街道市栗山 1052-398

【氏名】 青木 康夫

## 【発明者】

【住所又は居所】 千葉県佐倉市大崎台 3-4-5 大日本インキ佐倉社宅 3  
-204

【氏名】 石原 光輝

## 【特許出願人】

【識別番号】 000002886

【氏名又は名称】 大日本インキ化学工業株式会社

## 【代理人】

【識別番号】 100088764

## 【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 勝利

【電話番号】 03-5203-7758

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008257

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0214178

【プルーフの要否】 要

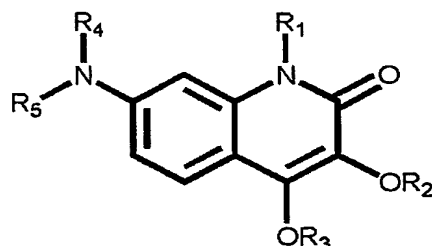
【書類名】 明細書

【発明の名称】 慢性閉塞性肺疾患治療剤

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 一般式 (I)

【化 1】



(式中、 $R_1$  は水素原子、又はアルキル基であり、 $R_2$  と  $R_3$  は、各々水素原子、アシル基、アルキル基、又はアルケニル基から選ばれる基であり、 $R_4$  と  $R_5$  は、各々、水素原子、アシル基、アルキル基、アルケニル基、又はアラルキル基から選ばれる基である。)

で表される 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項 2】  $R_1$  が水素原子、又は直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 1～10 のアルキル基である請求項 1 に記載の 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項 3】  $R_2$  と  $R_3$  が、各々水素原子、アシル基、直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 1～10 のアルキル基、又は直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 2～10 のアルケニル基である請求項 1 に記載の 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項 4】  $R_4$  と  $R_5$  が、各々水素原子、アシル基、直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 1～10 のアルキル基、又は直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 2～10 のアルケニル基、又はアラルキル基である請求項 1 に記載の 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性

閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項 5】  $R_1$  が水素原子、又は直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 1～10 のアルキル基であり、 $R_2$  と  $R_3$  が、各々水素原子、アシル基、直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 1～10 のアルキル基、又は直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 2～10 のアルケニル基であり、 $R_4$  と  $R_5$  が、各々水素原子、アシル基、直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 1～10 のアルキル基、又は直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 2～10 のアルケニル基、又はアラルキル基である請求項 1～4 のいずれか一つに記載の 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項 6】  $R_2$  が水素原子であり、 $R_3$  が直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 1～10 のアルキル基、又は直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 2～10 のアルケニル基である請求項 5 に記載の 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項 7】  $R_2$  が直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 1～10 のアルキル基、又は直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 2～10 のアルケニル基であり、 $R_3$  が水素原子である請求項 5 に記載の 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項 8】  $R_4$  が水素原子であり、 $R_5$  が水素原子、アシル基、直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 1～10 のアルキル基、又は直鎖状もしくは枝分かれした炭素数 2～10 のアルケニル基、又はアラルキル基である請求項 6～7 のいずれか一つに記載の 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項 9】  $R_5$  がアシル基である請求項 8 に記載の 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項 10】  $R_5$  が置換基を有しても良いシンナモイル基からなるアシル基である請求項 9 に記載の 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項 11】  $R_5$  が 4-ヒドロキシ-3-メトキシシンナモイル基、又は、3

、5-ジメトキシ-4-ヒドロキシシンナモイル基である請求項10に記載の7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項12】慢性閉塞性肺疾患が、慢性気管支炎である請求項1記載の慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【請求項13】慢性閉塞性肺疾患が、肺気腫である請求項1記載の慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、慢性閉塞性肺疾患の治療に有効である7-アミノキノリノン誘導体及びその生理学的に許容される塩を有効成分として含有する慢性閉塞性肺疾患治療剤に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、キノリノン誘導体に関しては、3-メトキシ-4-ヒドロキシ-1-メチル-2(1H)-キノリノン、8-メトキシ-3-メトキシ-4-ヒドロキシ-1-メチル-2(1H)-キノリノンなどの一般的なものが知られている(例えば、非特許文献1参照)。しかし、かかる文献では、これらの化合物が特定な治療剤としての有用であることについて何等記載されていない。

また、3位及び4位の炭素に直接酸素が結合し、7位にアミノ基を有するキノリノン誘導体も知られている(例えば特許文献1及び特許文献2参照)。これらの文献では、アミノ基を有するキノリノン誘導体が抗アレルギー作用及び喘息治療作用について検討されているものの、抗原抗体反応を介さない慢性閉塞性肺疾患という特異的な症状に対する治療作用については検討されておらず、かかるキノリノン誘導体が慢性閉塞性肺疾患治療剤として有効であることについては一切知られていない。

【0003】

【非特許文献1】 ジャーナル オブ ヘテロサイクリック ケミストリー 2

2、1087-1088ページ、1985年 (J. Heterocyclic Chem., 22, 1985)

【特許文献1】米国特許5942521号明細書

【特許文献2】米国特許6136822号明細書

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

本発明が解決しようとする課題は、安全性が高く、慢性閉塞性肺疾患に対して有効で、しかも極めて優れた薬効を示す慢性閉塞性肺疾患治療剤を提供することにある。

【0005】

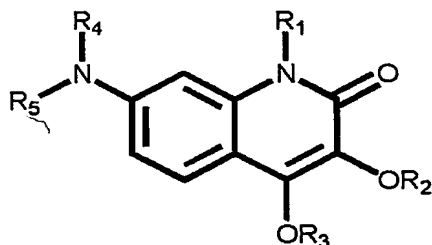
【課題を解決するための手段】

本発明者らは、上記の課題を達成する為に、多数の化合物を合成し、その薬効及び安全性を評価した結果、特定なアミノキノリノン誘導体が慢性閉塞性肺疾患治療剤として極めて有用であることを見出し、本発明を完成させるに至った。

即ち、本発明は、

一般式 (I)

【化2】



(式中、R<sub>1</sub>は水素原子、又はアルキル基であり、R<sub>2</sub>とR<sub>3</sub>は、各々水素原子、アシル基、アルキル基、又はアルケニル基から選ばれる基であり、R<sub>4</sub>とR<sub>5</sub>は、各々、水素原子、アシル基、アルキル基、アルケニル基、又はアラルキル基から選ばれる基である。)で表される7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤に関する。

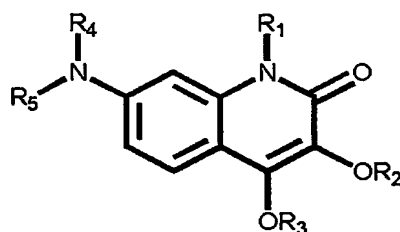
また、本発明慢性閉塞性肺疾患が、慢性気管支炎、肺気腫であることを特徴とする上記一般式 (1) の 7-アミノキノリノン誘導体、及びその生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤に関する。

【0006】

【発明の実施の形態】

本発明の一般式 (I)

【化 3】



で示される 7-アミノキノリノン誘導体における R<sub>1</sub> は水素原子又はアルキル基である。R<sub>1</sub> でのアルキル基は、直鎖状でも枝分かれしたアルキル基でも良い。

具体的には、例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、s-ブチル基、n-ペンチル基、ヘキシル基、オクチル基、デシル基等が挙げられ、好ましくは炭素数 1~10、より好ましくは炭素数 1~8 のアルキル基が挙げられる。

【0007】

また、一般式 (I) の R<sub>2</sub> と R<sub>3</sub> は水素原子、アシル基、アルキル基又はアルケニル基である。アシル基の例としては、例えばホルミル基、アセチル基、プロピオニル基、ブチリル基等で表されるアルカノイル基、ベンゾイル基等が挙げられる。ベンゾイル基は置換基を有しても良く、例えば、p-ヒドロキシベンゾイル基、p-メトキシベンゾイル基、2, 4-ジヒドロキシベンゾイル基、2, 4-ジメトキシベンゾイル基等が挙げられる。好ましくはアルカノイル基であり、特に好ましくはアセチル基である。

R<sub>2</sub> と R<sub>3</sub> のアルキル基の例としては、直鎖状でも枝分かれしたアルキル基でも良く、例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、s-ブチル基、n-ペンチル基、ヘキシル基、オクチル基、デシル基等が



挙げられ、好ましくは炭素数1～10、より好ましくは炭素数1～8のアルキル基が挙げられる。

R<sub>2</sub>とR<sub>3</sub>のアルケニル基の例としては、直鎖状でも枝分かれしたアルケニル基でも良く、例えばビニル基、プロペニル基、ヘキセニル基、オクテニル基、プレニル基、ゲラニル基等が挙げられ、好ましくは炭素数2～10のアルケニル基が挙げられる。

#### 【0008】

また、一般式(I)において、R<sub>4</sub>とR<sub>5</sub>は同一もしくは異なって、水素原子、アシル基、アルキル基、アルケニル基、又はアラルキル基である。アシル基の例としては、例えば、ホルミル基、アセチル基、プロピオニル基、ブチリル基等で表されるアルカノイル基、ベンゾイル基、置換されたベンゾイル基、もしくは置換されていても良いシンナモイル基である。

置換されたベンゾイル基は、例えば、p-ヒドロキシベンゾイル基、p-メトキシベンゾイル基、2,4-ジヒドロキシベンゾイル基、2,4-ジメトキシベンゾイル基等であり、置換されていても良いシンナモイル基は、例えば、シンナモイル基、2-ヒドロキシシンナモイル基、3-ヒドロキシシンナモイル基、4-ヒドロキシシンナモイル基、3,4-ジヒドロキシシンナモイル基、4-ヒドロキシ-3-メトキシシンナモイル基、3-ヒドロキシ-4-メトキシシンナモイル基、3,5-ジメトキシ-4-ヒドロキシシンナモイル基等が挙げられる。好ましくは置換されていてもよいシンナモイル基が挙げられる。

#### 【0009】

一般式(I)のR<sub>4</sub>とR<sub>5</sub>のアルキル基としては、直鎖状でも枝分かれしたアルキル基でも良く、例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、s-ブチル基、n-ペンチル基、ヘキシル基、オクチル基、デシル基等が挙げられ、好ましくは炭素数1～10のアルキル基が挙げられ、より好ましくは炭素数1～8のアルキル基が挙げられる。

R<sub>4</sub>とR<sub>5</sub>のアルケニル基としては、直鎖状でも枝分かれしたアルケニル基でも良く、例えばビニル基、プロペニル基、ヘキセニル基、オクテニル基、プレニル基、ゲラニル基等が挙げられ、好ましくは炭素数2～10のアルケニル基が挙

げられる。

R<sub>4</sub> と R<sub>5</sub> のアラルキル基の例としては、ベンジル基、置換されたベンジル基（例えば、p-メトキシベンジル基、p-ヒドロキシベンジル基等）のアラルキル基が挙げられる。本発明は、一般式（I）で示される 7-アミノキノリノン誘導体の R<sub>4</sub> と R<sub>5</sub> の置換基が同一の置換基である 7-アミノキノリノン誘導体も、上述の群から選択された置換基の異なる組み合わせからなる 7-アミノキノリノン誘導体をも含む。

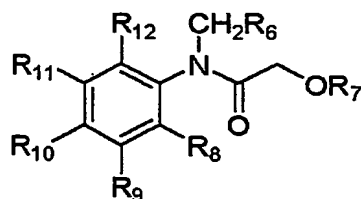
### 【0010】

本発明の慢性閉塞性肺疾患治療剤の有効成分である 7-アミノキノリノン誘導体の製造は、目的とする 7-アミノキノリノン誘導体によって、適宜好ましい製造法を選択して行うことが可能であるが、例えば特許第 2943725 号公報、或いは米国特許 6136822 号公報に記載された製造法によって行うことが出来る。

一例として、米国特許 6136822 号公報による方法を説明する。

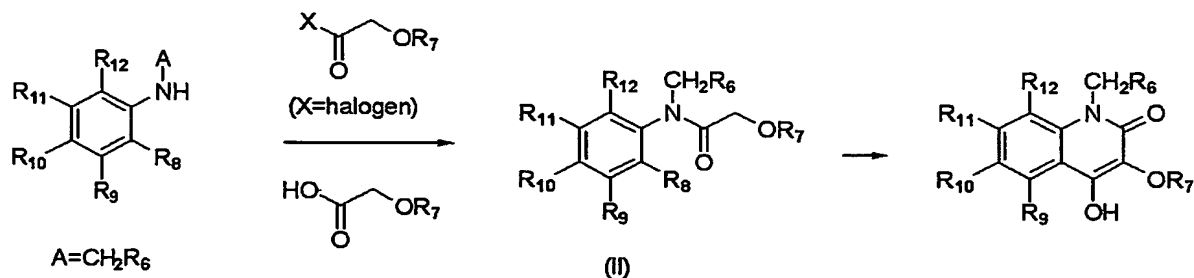
一般式（II）

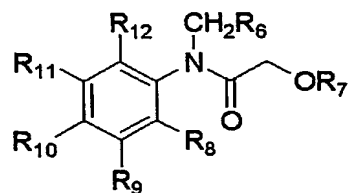
### 【化 4】



で表されるアミド誘導体と塩基性物質とを反応させ、分子内環化反応を行う。

### 【化 5】





(式中、 $R_6$ は水素原子、アルキル基、水酸基を有するアルキル基、アルケニ

(式中、 $R_6$ は水素原子、アルキル基、水酸基を有するアルキル基、アルケニル基、又はアリール基であり、 $R_7$ はアルキル基、アルケニル基、アリール基、又はアラルキル基であり、 $R_8$ は反応性カルボキシル基であり、 $R_9$ 、 $R_{10}$ 及び $R_{12}$ は、水素原子であり、 $R_{11}$ は、 $R_{13}R_{14}N$ -(ここで、 $R_{13}$ と $R_{14}$ は各々独立に、水素原子、アルキル基、アルケニル基、アラルキル基、又はアシル基を表わす)を表わす。)

#### 【0011】

上記塩基性物質としては、例えば、アルカリ金属、アルカリ金属アルコキシド、アルカリ土類金属アルコキシド、アルカリ金属水素化物、アルカリ土類金属水素化物、アルカリ金属アミド等の種々の化合物を挙げることが出来る。

例えば、アルカリ金属としては、ナトリウム、カリウム等のアルカリ金属を、アルカリ金属アルコキシドとしては、メトキシナトリウム、エトキシナトリウム、*t*-ブトキシナトリウム、*t*-ブトキシカリウム等の塩基性物質を、アルカリ土類金属アルコキシドとしては、メトキシマグネシウム、エトキシマグネシウム、*t*-ブトキシマグネシウム、メトシカルシウム、エトシカルシウム、*t*-ブトシカルシウム、メトキシバリウム、エトキシバリウム、*t*-ブトキシバリウム等を挙げることが出来る。

また、アルカリ金属水素化物としては、水素化リチウム、水素化ナトリウム、水素化カリウム等のアルカリ金属水素化物を、アルカリ土類金属水素化物としては、水素化カルシウム等のアルカリ土類金属水素化物を挙げることが出来る。更に、アルカリ金属アミドとしては、リチウムアミド、ナトリウムアミド、カリウムアミド、リチウムジイソプロピルアミド、リチウムビス(トリメチルシリル)アミド、ナトリウムビス(トリメチルシリル)アミド、カリウムビス(トリメチ

ルシリル) アミド等を挙げることが出来る。

#### 【0012】

また、環化反応に必要な塩基性物質の量は、通常、反応させるアミド誘導体に対し、1～5倍モル用いることが出来るが、2～3倍モルが好ましい。例えば、塩基性物質として水素化ナトリウム、或いはt-ブトキシカリウム、もしくはリチウムジイソプロピルアミドを用いた場合には、アミド誘導体に対して、通常2倍モル用いれば十分である。

#### 【0013】

上記の7-アミノキノリノン誘導体の製造方法における反応は、反応を阻害しない有機溶媒中で行う。その際の有機溶媒としては、例えば、ベンゼン、トルエン等の炭化水素系溶媒、メタノール、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、t-ブタノール等のアルコール系溶媒、ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、1,2-ジメトキシエタン等のエーテル系溶媒、N,N-ジメチルホルムアミド、1-メチル-2-ピロリジノン等のアミド系溶媒が挙げられる。

用いる塩基性物質の種類により、好ましい有機溶媒も異なるが、例えば、アルカリ金属アルコキシドの場合には、一般にアルコール系溶媒が好ましく、アルカリ金属アミドであるリチウムアミド、ナトリウムアミド、カリウムアミドを用いる際には、アンモニアを溶媒として用いることが出来る。

#### 【0014】

反応温度は、用いる塩基性物質、並びに反応溶媒の種類によっても異なるが、一般に-80℃～100℃、好ましくは、-50℃～50℃であり、反応時間は、通常1～5時間である。

#### 【0015】

こうして得られた、本発明の一般式(I)で示される7-アミノキノリノン誘導体の具体例としては、例えば下記の表の化合物が挙げられる。

#### 【0016】

【表 1】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
1	H	アセチル	メチル	H	H
2	H	アセチル	ブチル	H	H
3	H	アセチル	ヘキシル	H	H
4	H	アセチル	3-メチル-2-ブチニル	H	H
5	H	アセチル	ゲラニル	H	H
6	H	アセチル	H	H	H
7	H	ホルミル	メチル	H	H
8	H	ホルミル	ブチル	H	H
9	H	ホルミル	ヘキシル	H	H
10	H	ホルミル	3-メチル-2-ブチニル	H	H
11	H	ホルミル	ゲラニル	H	H
12	H	ホルミル	H	H	H
13	H	メチル	メチル	H	H
14	H	メチル	ブチル	H	H
15	H	メチル	ヘキシル	H	H
16	H	メチル	3-メチル-2-ブチニル	H	H
17	H	メチル	ゲラニル	H	H
18	H	メチル	H	H	H
19	H	イソプロピル	H	H	H
20	H	ブチル	H	H	H
21	H	ヘキシル	H	H	H
22	H	2-メチルヘキシル	H	H	H
23	H	オクチル	H	H	H
24	H	2-プロピル	H	H	H

【0017】

【表 2】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
25	H	ケラニル	H	H	H
26	H	H	H	H	H
27	H	H	メチル	H	H
28	H	H	ブチル	H	H
29	H	H	ヘキシル	H	H
30	H	H	3-メチル-2-ブテニル	H	H
31	H	H	ケラニル	H	H
32	メチル	アセチル	メチル	H	H
33	メチル	アセチル	エチル	H	H
34	メチル	アセチル	ブチル	H	H
35	メチル	アセチル	ヘキシル	H	H
36	メチル	アセチル	3-メチル-2-ブテニル	H	H
37	メチル	アセチル	ケラニル	H	H
38	メチル	アセチル	H	H	H
39	メチル	ホルミル	メチル	H	H
40	メチル	ホルミル	ブチル	H	H
41	メチル	ホルミル	ヘキシル	H	H
42	メチル	ホルミル	3-メチル-2-ブテニル	H	H
43	メチル	ホルミル	ケラニル	H	H
44	メチル	ホルミル	H	H	H
45	メチル	メチル	メチル	H	H
46	メチル	メチル	ブチル	H	H
47	メチル	メチル	ヘキシル	H	H
48	メチル	メチル	3-メチル-2-ブテニル	H	H
49	メチル	メチル	ケラニル	H	H

【0018】

【表3】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
50	メチル	メチル	H	H	H
51	メチル	イソプロピル	H	H	H
52	メチル	ブチル	H	H	H
53	メチル	ヘキシル	H	H	H
54	メチル	2-メチルヘンチル	H	H	H
55	メチル	オクチル	H	H	H
56	メチル	2-プロピニル	H	H	H
57	メチル	ケラニル	H	H	H
58	メチル	H	メチル	H	H
59	メチル	H	ブチル	H	H
60	メチル	H	ヘキシル	H	H
61	メチル	H	3-メチル-2-プロテニル	H	H
62	メチル	H	ケラニル	H	H
63	メチル	H	H	H	H
64	エチル	アセチル	メチル	H	H
65	エチル	アセチル	エチル	H	H
66	エチル	アセチル	ブチル	H	H
67	エチル	アセチル	ヘキシル	H	H
68	エチル	アセチル	3-メチル-2-プロテニル	H	H
69	エチル	アセチル	ケラニル	H	H
70	エチル	アセチル	H	H	H
71	エチル	ホルミル	メチル	H	H
72	エチル	ホルミル	ブチル	H	H

【0019】

【表 4】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
73	エチル	ホルミル	ヘキシル	H	H
74	エチル	ホルミル	3-メチル-2-ブテニル	H	H
75	エチル	ホルミル	ゲラニル	H	H
76	エチル	ホルミル	H	H	H
77	エチル	メチル	メチル	H	H
78	エチル	メチル	ブチル	H	H
79	エチル	メチル	ヘキシル	H	H
80	エチル	メチル	3-メチル-2-ブテニル	H	H
81	エチル	メチル	ゲラニル	H	H
82	エチル	メチル	H	H	H
83	エチル	イソプロピル	H	H	H
84	エチル	ブチル	H	H	H
85	エチル	ヘキシル	H	H	H
86	エチル	2-メチルペンチル	H	H	H
87	エチル	オクチル	H	H	H
88	エチル	2-プロペニル	H	H	H
89	エチル	ゲラニル	H	H	H
90	エチル	H	メチル	H	H
91	エチル	H	ブチル	H	H
92	エチル	H	ヘキシル	H	H
93	エチル	H	3-メチル-2-ブテニル	H	H
94	エチル	H	ゲラニル	H	H
95	エチル	H	H	H	H
96	プロピル	H	メチル	H	H



【0020】

【表5】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
97	プロピル	H	プロピル	H	H
98	プロピル	H	ブチル	H	H
99	プロピル	H	デシル	H	H
100	ブチル	アセチル	メチル	H	H
101	ブチル	アセチル	エチル	H	H
102	ブチル	アセチル	ブチル	H	H
103	ブチル	アセチル	ヘキシル	H	H
104	ブチル	アセチル	3-メチル-2-ブテニル	H	H
105	ブチル	アセチル	ゲラニル	H	H
106	ブチル	アセチル	H	H	H
107	ブチル	ホルミル	メチル	H	H
108	ブチル	ホルミル	ブチル	H	H
109	ブチル	ホルミル	ヘキシル	H	H
110	ブチル	ホルミル	3-メチル-2-ブテニル	H	H
111	ブチル	ホルミル	ゲラニル	H	H
112	ブチル	ホルミル	H	H	H
113	ブチル	メチル	メチル	H	H
114	ブチル	メチル	ブチル	H	H
115	ブチル	メチル	H	H	H
116	ブチル	イソプロピル	H	H	H
117	ブチル	ブチル	H	H	H
118	ブチル	ヘキシル	H	H	H
119	ブチル	2-メチルペンチル	H	H	H
120	ブチル	オクチル	H	H	H

【0021】

【表6】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
121	ブチル	2-ブロヘニル	H	H	H
122	ブチル	ケラニル	H	H	H
123	ブチル	H	メチル	H	H
124	ブチル	H	ブチル	H	H
125	ブチル	H	ヘキシル	H	H
126	ブチル	H	3-メチル-2-ブテニル	H	H
127	ブチル	H	ケラニル	H	H
128	ブチル	H	H	H	H
129	ヘキシル	アセチル	メチル	H	H
130	ヘキシル	アセチル	エチル	H	H
131	ヘキシル	アセチル	ブチル	H	H
132	ヘキシル	アセチル	ヘキシル	H	H
133	ヘキシル	アセチル	3-メチル-2-ブテニル	H	H
134	ヘキシル	アセチル	ケラニル	H	H
135	ヘキシル	アセチル	H	H	H
136	ヘキシル	ホルミル	メチル	H	H
137	ヘキシル	ホルミル	ブチル	H	H
138	ヘキシル	ホルミル	ヘキシル	H	H
139	ヘキシル	ホルミル	3-メチル-2-ブテニル	H	H
140	ヘキシル	ホルミル	ケラニル	H	H
141	ヘキシル	ホルミル	H	H	H
142	ヘキシル	メチル	メチル	H	H
143	ヘキシル	メチル	ブチル	H	H
144	ヘキシル	メチル	H	H	H

【0022】

【表 7】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
145	ヘキシル	イソプロピル	H	H	H
146	ヘキシル	ブチル	H	H	H
147	ヘキシル	ヘキシル	H	H	H
148	ヘキシル	2-メチルペンチル	H	H	H
149	ヘキシル	オクチル	H	H	H
150	ヘキシル	2-プロピル	H	H	H
151	ヘキシル	ケラニル	H	H	H
152	ヘキシル	H	メチル	H	H
153	ヘキシル	H	ブチル	H	H
154	ヘキシル	H	ヘキシル	H	H
155	ヘキシル	H	3-メチル-2-プロピル	H	H
156	ヘキシル	H	ケラニル	H	H
157	ヘキシル	H	H	H	H
158	オクチル	アセチル	メチル	H	H
159	オクチル	アセチル	エチル	H	H
160	オクチル	アセチル	ブチル	H	H
161	オクチル	アセチル	ヘキシル	H	H
162	オクチル	アセチル	3-メチル-2-プロピル	H	H
163	オクチル	アセチル	ケラニル	H	H
164	オクチル	アセチル	H	H	H
165	オクチル	ホルミル	メチル	H	H
166	オクチル	ホルミル	ブチル	H	H
167	オクチル	ホルミル	ヘキシル	H	H
168	オクチル	ホルミル	3-メチル-2-プロピル	H	H

【0023】

【表 8】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
169	オクチル	ホルミル	ケラニル	H	H
170	オクチル	ホルミル	H	H	H
171	オクチル	メチル	メチル	H	H
172	オクチル	メチル	ブチル	H	H
173	オクチル	メチル	H	H	H
174	オクチル	イソプロピル	H	H	H
175	オクチル	ブチル	H	H	H
176	オクチル	ヘキシル	H	H	H
177	オクチル	2-メチルヘンチル	H	H	H
178	オクチル	オクチル	H	H	H
179	オクチル	2-プロピル	H	H	H
180	オクチル	ケラニル	H	H	H
181	オクチル	H	メチル	H	H
182	オクチル	H	ブチル	H	H
183	オクチル	H	ヘキシル	H	H
184	オクチル	H	3-メチル-2-ブチル	H	H
185	オクチル	H	ケラニル	H	H
186	オクチル	H	H	H	H
187	H	アセチル	メチル	H	ヘキシル
188	H	アセチル	ブチル	H	ヘキシル
189	H	アセチル	ヘキシル	H	ヘキシル
190	H	アセチル	3-メチル-2-ブチル	H	ヘキシル
191	H	アセチル	ケラニル	H	ヘキシル
192	H	アセチル	H	H	ヘキシル

【0024】

【表 9】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
193	H	ホルミル	メチル	H	ヘキシル
194	H	ホルミル	ブチル	H	ヘキシル
195	H	ホルミル	ヘキシル	H	ヘキシル
196	H	ホルミル	3-メチル-2-ブチニル	H	ヘキシル
197	H	ホルミル	ゲラニル	H	ヘキシル
198	H	ホルミル	H	H	ヘキシル
199	H	メチル	メチル	H	ヘキシル
200	H	メチル	ブチル	H	ヘキシル
201	H	メチル	ヘキシル	H	ヘキシル
202	H	メチル	3-メチル-2-ブチニル	H	ヘキシル
203	H	メチル	ゲラニル	H	ヘキシル
204	H	メチル	H	H	ヘキシル
205	H	イソプロピル	H	H	ヘキシル
206	H	ブチル	H	H	ヘキシル
207	H	ヘキシル	H	H	ヘキシル
208	H	2-メチルヘンチル	H	H	ヘキシル
209	H	オクチル	H	H	ヘキシル
210	H	2-プロピニル	H	H	ヘキシル
211	H	ゲラニルオキシ	H	H	オクチル
212	H	H	H	H	オクチル
213	H	H	メチル	H	オクチル
214	H	H	ブチル	H	オクチル
215	H	H	ヘキシル	H	オクチル
216	H	H	3-メチル-2-ブチニル	H	オクチル

【0025】

【表10】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
217	H	H	ケ <sup>*</sup> ラニル	H	オクチル
218	メチル	アセチル	メチル	H	エチル
219	メチル	アセチル	エチル	H	エチル
220	メチル	アセチル	ブ <sup>*</sup> チル	H	エチル
221	メチル	アセチル	ヘキシル	H	エチル
222	メチル	アセチル	3-メチル-2-ブ <sup>*</sup> テニル	H	エチル
223	メチル	アセチル	ケ <sup>*</sup> ラニル	H	エチル
224	メチル	アセチル	H	H	エチル
225	メチル	ホルミル	メチル	H	エチル
226	メチル	ホルミル	ブ <sup>*</sup> チル	H	エチル
227	メチル	ホルミル	ヘキシル	H	エチル
228	メチル	ホルミル	3-メチル-2-ブ <sup>*</sup> テニル	H	エチル
229	メチル	ホルミル	ケ <sup>*</sup> ラニル	H	エチル
230	メチル	ホルミル	H	H	エチル
231	メチル	メチル	メチル	H	エチル
232	メチル	メチル	ブ <sup>*</sup> チル	H	エチル
233	メチル	メチル	ヘキシル	H	エチル
234	メチル	メチル	3-メチル-2-ブ <sup>*</sup> テニル	H	エチル
235	メチル	メチル	ケ <sup>*</sup> ラニル	H	エチル
236	メチル	メチル	H	H	エチル
237	メチル	イソブ <sup>*</sup> ロピ <sup>*</sup> ル	H	H	エチル
238	メチル	ブ <sup>*</sup> チル	H	H	エチル
239	メチル	ヘキシル	H	H	エチル
240	メチル	2-メチル-ヘ <sup>*</sup> ンチル	H	H	エチル

【0026】

【表11】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
241	メチル	オクチル	H	H	エチル
242	メチル	2-ブ <sup>o</sup> ロヘ <sup>o</sup> ニル	H	H	エチル
243	メチル	ゲ <sup>o</sup> ラニル	H	H	エチル
244	メチル	H	メチル	H	エチル
245	メチル	H	ブ <sup>o</sup> チル	H	エチル
246	メチル	H	ヘキシル	H	エチル
247	メチル	H	3-メチル-2-ブ <sup>o</sup> テニル	H	エチル
248	メチル	H	ゲ <sup>o</sup> ラニル	H	エチル
249	メチル	H	H	H	エチル
250	エチル	アセチル	メチル	H	ブ <sup>o</sup> チル
251	エチル	アセチル	エチル	H	ブ <sup>o</sup> チル
252	エチル	アセチル	ブ <sup>o</sup> チル	H	ブ <sup>o</sup> チル
253	エチル	アセチル	ヘキシル	H	ブ <sup>o</sup> チル
254	エチル	アセチル	3-メチル-2-ブ <sup>o</sup> テニル	H	ブ <sup>o</sup> チル
255	エチル	アセチル	ゲ <sup>o</sup> ラニル	H	ブ <sup>o</sup> チル
256	エチル	アセチル	H	H	ブ <sup>o</sup> チル
257	エチル	ホルミル	メチル	H	ブ <sup>o</sup> チル
258	エチル	ホルミル	ブ <sup>o</sup> チル	H	ブ <sup>o</sup> チル
259	エチル	ホルミル	ヘキシル	H	ブ <sup>o</sup> チル
260	エチル	ホルミル	3-メチル-2-ブ <sup>o</sup> テニル	H	ブ <sup>o</sup> チル
261	エチル	ホルミル	ゲ <sup>o</sup> ラニル	H	ブ <sup>o</sup> チル
262	エチル	ホルミル	H	H	ブ <sup>o</sup> チル
263	エチル	メチル	メチル	H	ブ <sup>o</sup> チル
264	エチル	メチル	ブ <sup>o</sup> チル	H	ブ <sup>o</sup> チル

【0027】

【表12】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
265	エチル	メチル	ヘキシル	H	ブチル
266	エチル	メチル	3-メチル-2-ブチニル	H	ブチル
267	エチル	メチル	ゲラニル	H	ブチル
268	エチル	メチル	H	H	ブチル
269	エチル	イソプロピル	H	H	ブチル
270	エチル	ブチル	H	H	ブチル
271	エチル	ヘキシル	H	H	ブチル
272	エチル	2-メチルヘニル	H	H	ブチル
273	エチル	オクチル	H	H	ブチル
274	エチル	2-プロピニル	H	H	ブチル
275	エチル	ゲラニル	H	H	ブチル
276	エチル	H	メチル	H	ブチル
277	エチル	H	ブチル	H	ブチル
278	エチル	H	ヘキシル	H	ブチル
279	エチル	H	3-メチル-2-ブチニル	H	ブチル
280	エチル	H	ゲラニル	H	ブチル
281	エチル	H	H	H	ブチル
282	プロピル	H	メチル	H	ブチル
283	プロピル	H	プロピル	H	ブチル
284	プロピル	H	ブチル	H	ブチル
285	プロピル	H	デシル	H	ブチル
286	ブチル	アセチル	メチル	H	メチル
287	ブチル	アセチル	エチル	H	メチル
288	ブチル	アセチル	ブチル	H	メチル



【0028】

【表13】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
289	ブチル	アセチル	ヘキシル	H	メチル
290	ブチル	アセチル	3-メチル-2-ブテニル	H	メチル
291	ブチル	アセチル	ゲラニル	H	メチル
292	ブチル	アセチル	H	H	メチル
293	ブチル	ホルミル	メチル	H	メチル
294	ブチル	ホルミル	ブチル	H	メチル
295	ブチル	ホルミル	ヘキシル	H	メチル
296	ブチル	ホルミル	3-メチル-2-ブテニル	H	メチル
297	ブチル	ホルミル	ゲラニル	H	メチル
298	ブチル	ホルミル	H	H	メチル
299	ブチル	メチル	メチル	H	メチル
300	ブチル	メチル	ブチル	H	メチル
301	ブチル	メチル	H	メチル	メチル
302	ブチル	イソプロピル	H	メチル	メチル
303	ブチル	ブチル	H	メチル	メチル
304	ブチル	ヘキシル	H	メチル	メチル
305	ブチル	2-メチルヘンチル	H	メチル	メチル
306	ブチル	オクチル	H	メチル	メチル
307	ブチル	2-プロピニル	H	メチル	メチル
308	ブチル	ゲラニル	H	メチル	メチル
309	ブチル	H	メチル	メチル	メチル
310	ブチル	H	ブチル	メチル	メチル
311	ブチル	H	ヘキシル	メチル	メチル
312	ブチル	H	3-メチル-2-ブテニル	メチル	メチル

【0029】

【表14】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
313	ブチル	H	ケラニル	メチル	メチル
314	ブチル	H	H	メチル	メチル
315	ヘキシル	アセチル	メチル	H	エチル
316	ヘキシル	アセチル	エチル	H	エチル
317	ヘキシル	アセチル	ブチル	H	エチル
318	ヘキシル	アセチル	ヘキシル	H	エチル
319	ヘキシル	アセチル	3-メチル-2-ブテニル	H	エチル
320	ヘキシル	アセチル	ケラニル	H	エチル
321	ヘキシル	アセチル	H	H	エチル
322	ヘキシル	ホルミル	メチル	H	エチル
323	ヘキシル	ホルミル	ブチル	H	エチル
324	ヘキシル	ホルミル	ヘキシル	H	エチル
325	ヘキシル	ホルミル	3-メチル-2-ブテニル	H	エチル
326	ヘキシル	ホルミル	ケラニル	H	エチル
327	ヘキシル	ホルミル	H	H	エチル
328	ヘキシル	メチル	メチル	H	エチル
329	ヘキシル	メチル	ブチル	H	エチル
330	ヘキシル	メチル	H	H	エチル
331	ヘキシル	イソプロピル	H	H	エチル
332	ヘキシル	ブチル	H	H	エチル
333	ヘキシル	ヘキシル	H	H	エチル
334	ヘキシル	2-メチルペンチル	H	H	エチル
335	ヘキシル	オクチル	H	H	エチル

【0030】

【表15】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
336	ヘキシル	2-プロパニル	H	H	エチル
337	ヘキシル	ケラニル	H	H	エチル
338	ヘキシル	H	メチル	H	エチル
339	ヘキシル	H	ブチル	H	エチル
340	ヘキシル	H	ヘキシル	H	エチル
341	ヘキシル	H	3-メチル-2-ブチニル	H	エチル
342	ヘキシル	H	ケラニル	H	エチル
343	ヘキシル	H	H	H	エチル
344	オクチル	アセチル	メチル	H	エチル
345	オクチル	アセチル	エチル	H	エチル
346	オクチル	アセチル	ブチル	H	エチル
347	オクチル	アセチル	ヘキシル	H	エチル
348	オクチル	アセチル	3-メチル-2-ブチニル	H	エチル
349	オクチル	アセチル	ケラニル	H	エチル
350	オクチル	アセチル	H	H	エチル
351	オクチル	ホルミル	メチル	H	エチル
352	オクチル	ホルミル	ブチル	H	エチル
353	オクチル	ホルミル	ヘキシル	H	エチル
354	オクチル	ホルミル	3-メチル-2-ブチニル	H	エチル
355	オクチル	ホルミル	ケラニル	H	エチル
356	オクチル	ホルミル	H	H	エチル
357	オクチル	メチル	メチル	H	エチル
358	オクチル	メチル	ブチル	H	エチル
359	オクチル	メチル	H	H	エチル

【0031】

【表16】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
360	オクチル	イソプロピル	H	H	エチル
361	オクチル	ブチル	H	H	エチル
362	オクチル	ヘキシル	H	H	エチル
363	オクチル	2-メチルヘンチル	H	H	エチル
364	オクチル	オクチル	H	H	エチル
365	オクチル	2-プロピル	H	H	エチル
366	オクチル	ゲラニル	H	H	エチル
367	オクチル	H	メチル	H	エチル
368	オクチル	H	ブチル	H	エチル
369	オクチル	H	ヘキシル	H	エチル
370	オクチル	H	3-メチル-2-ブチニル	H	エチル
371	オクチル	H	ゲラニル	H	エチル
372	オクチル	H	H	H	エチル
373	メチル	アセチル	メチル	アセチル	エチル
374	メチル	アセチル	エチル	アセチル	エチル
375	メチル	アセチル	ブチル	アセチル	エチル
376	メチル	アセチル	ヘキシル	アセチル	エチル
377	メチル	アセチル	3-メチル-2-ブチニル	アセチル	エチル
378	メチル	アセチル	ゲラニル	アセチル	エチル
379	メチル	アセチル	H	アセチル	エチル
380	メチル	ホルミル	メチル	アセチル	エチル
381	メチル	ホルミル	ブチル	アセチル	エチル
382	メチル	ホルミル	ヘキシル	アセチル	エチル
383	メチル	ホルミル	3-メチル-2-ブチニル	アセチル	エチル

【0032】

【表17】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
384	メチル	ホルミル	ケラニル	アセチル	エチル
385	メチル	ホルミル	H	アセチル	エチル
386	メチル	メチル	メチル	H	アセチル
387	メチル	メチル	ブチル	H	アセチル
388	メチル	メチル	ヘキシル	H	アセチル
389	メチル	メチル	3-メチル-2-ブテニル	H	アセチル
390	メチル	メチル	ケラニル	H	アセチル
391	メチル	メチル	H	H	アセチル
392	メチル	イソプロピル	H	H	アセチル
393	メチル	ブチル	H	H	アセチル
394	メチル	ヘキシル	H	H	アセチル
395	メチル	2-メチルヘンチル	H	H	アセチル
396	メチル	オクチル	H	H	アセチル
397	メチル	2-プロピル	H	H	アセチル
398	メチル	ケラニル	H	H	アセチル
399	メチル	H	メチル	H	アセチル
400	メチル	H	ブチル	H	アセチル
401	メチル	H	ヘキシル	H	アセチル
402	メチル	H	3-メチル-2-ブテニル	H	アセチル
403	メチル	H	ケラニル	H	アセチル
404	メチル	H	H	H	アセチル
405	エチル	アセチル	メチル	H	アセチル
406	エチル	アセチル	エチル	H	アセチル
407	エチル	アセチル	ブチル	H	アセチル

【0033】

【表18】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
408	エチル	アセチル	ヘキシル	H	アセチル
409	エチル	アセチル	3-メチル-2-ブテニル	H	アセチル
410	エチル	アセチル	ゲラニル	H	アセチル
411	エチル	アセチル	H	H	アセチル
412	エチル	ホルミル	メチル	H	アセチル
413	エチル	ホルミル	ブチル	H	アセチル
414	エチル	ホルミル	ヘキシル	H	アセチル
415	エチル	ホルミル	3-メチル-2-ブテニル	H	アセチル
416	エチル	ホルミル	ゲラニル	H	アセチル
417	エチル	ホルミル	H	H	アセチル
418	エチル	メチル	メチル	H	アセチル
419	エチル	メチル	ブチル	H	アセチル
420	エチル	メチル	ヘキシル	H	アセチル
421	エチル	メチル	3-メチル-2-ブテニル	H	アセチル
422	エチル	メチル	ゲラニル	H	アセチル
423	エチル	メチル	H	H	アセチル
424	エチル	イソプロピル	H	H	アセチル
425	エチル	ブチル	H	H	アセチル
426	エチル	ヘキシル	H	H	アセチル
427	エチル	2-メチルヘニル	H	H	アセチル
428	エチル	オクチル	H	H	アセチル
429	エチル	2-ブロヘニル	H	H	アセチル
430	エチル	ゲラニル	H	H	アセチル
431	エチル	H	メチル	H	アセチル

【0034】

【表19】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
432	エチル	H	ブチル	H	アセチル
433	エチル	H	ヘキシル	H	アセチル
434	エチル	H	3-メチル-2-ブチニル	H	アセチル
435	エチル	H	ケラニル	H	アセチル
436	エチル	H	H	H	アセチル
437	プロピル	H	メチル	H	アセチル
438	プロピル	H	プロピル	H	アセチル
439	プロピル	H	ブチル	H	アセチル
440	プロピル	H	デシル	H	アセチル
441	ブチル	アセチル	メチル	H	ホルミル
442	ブチル	アセチル	エチル	H	ホルミル
443	ブチル	アセチル	ブチル	H	ホルミル
444	ブチル	アセチル	ヘキシル	H	ホルミル
445	ブチル	アセチル	3-メチル-2-ブチニル	H	ホルミル
446	ブチル	アセチル	ケラニル	H	ホルミル
447	ブチル	アセチル	H	H	ホルミル
448	ブチル	ホルミル	メチル	H	ホルミル
449	ブチル	ホルミル	ブチル	H	ホルミル
450	ブチル	ホルミル	ヘキシル	H	ホルミル
451	ブチル	ホルミル	3-メチル-2-ブチニル	H	ホルミル
452	ブチル	ホルミル	ケラニル	H	ホルミル
453	ブチル	ホルミル	H	H	ホルミル
454	ブチル	メチル	メチル	H	ホルミル
455	ブチル	メチル	ブチル	H	ホルミル

【0035】

【表20】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
456	ブチル	メチル	H	H	ホルミル
457	ブチル	イソブロピル	H	H	ホルミル
458	ブチル	ブチル	H	H	ホルミル
459	ブチル	ヘキシル	H	H	ホルミル
460	ブチル	2-メチルヘンチル	H	H	ホルミル
461	ブチル	オクチル	H	H	ホルミル
462	ブチル	2-ブロピニル	H	H	ホルミル
463	ブチル	ゲラニル	H	H	ホルミル
464	ブチル	H	メチル	H	ホルミル
465	ブチル	H	ブチル	H	ホルミル
466	ブチル	H	ヘキシル	H	ホルミル
467	ブチル	H	3-メチル-2-ブテニル	H	ホルミル
468	ブチル	H	ゲラニル	H	ホルミル
469	ブチル	H	H	H	ホルミル
470	ヘキシル	アセチル	メチル	H	ブロピオニル
471	ヘキシル	アセチル	エチル	H	ブロピオニル
472	ヘキシル	アセチル	ブチル	H	ブロピオニル
473	ヘキシル	アセチル	ヘキシル	H	ブロピオニル
474	ヘキシル	アセチル	3-メチル-2-ブテニル	H	ブロピオニル
475	ヘキシル	アセチル	ゲラニル	H	ブロピオニル
476	ヘキシル	アセチル	H	H	ブロピオニル
477	ヘキシル	ホルミル	メチル	H	ブロピオニル
478	ヘキシル	ホルミル	ブチル	H	ブロピオニル
479	ヘキシル	ホルミル	ヘキシル	H	ブロピオニル



【0036】

【表 21】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
480	ヘキシル	ホルミル	3-メチル-2-ブテニル	H	プロピオニル
481	ヘキシル	ホルミル	ゲラニル	H	プロピオニル
482	ヘキシル	ホルミル	H	H	プロピオニル
483	ヘキシル	メチル	メチル	H	プロピオニル
484	ヘキシル	メチル	ブチル	H	プロピオニル
485	ヘキシル	メチル	H	H	プロピオニル
486	ヘキシル	イソプロピル	H	H	プロピオニル
487	ヘキシル	ブチル	H	H	プロピオニル
488	ヘキシル	ヘキシル	H	H	プロピオニル
489	ヘキシル	2-メチルヘンチル	H	H	プロピオニル
490	ヘキシル	オクチル	H	H	プロピオニル
491	ヘキシル	2-プロピニル	H	H	プロピオニル
492	ヘキシル	ゲラニル	H	H	プロピオニル
493	ヘキシル	H	メチル	H	プロピオニル
494	ヘキシル	H	ブチル	H	プロピオニル
495	ヘキシル	H	ヘキシル	H	プロピオニル
496	ヘキシル	H	3-メチル-2-ブテニル	H	プロピオニル
497	ヘキシル	H	ゲラニル	H	プロピオニル
498	ヘキシル	H	H	H	プロピオニル
499	オクチル	アセチル	メチル	H	プロピオニル
500	オクチル	アセチル	エチル	H	ベンゾイル
501	オクチル	アセチル	ブチル	H	ベンゾイル
502	オクチル	アセチル	ヘキシル	H	ベンゾイル
503	オクチル	アセチル	3-メチル-2-ブテニル	H	ベンゾイル

【0037】

【表 22】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
504	オクチル	アセチル	ゲラニル	H	ベンゾイル
505	オクチル	アセチル	H	H	ベンゾイル
506	オクチル	ホルミル	メチル	H	ベンゾイル
507	オクチル	ホルミル	ブチル	H	ベンゾイル
508	オクチル	ホルミル	ヘキシル	H	ベンゾイル
509	オクチル	ホルミル	3-メチル-2-ブテニル	H	ベンゾイル
510	オクチル	ホルミル	ゲラニル	H	ベンゾイル
511	オクチル	ホルミル	H	H	ベンゾイル
512	オクチル	メチル	メチル	H	ベンゾイル
513	オクチル	メチル	ブチル	H	ベンゾイル
514	メチル	メチル	H	H	ベンゾイル
515	メチル	イソプロピル	H	H	ベンゾイル
516	メチル	ブチル	H	H	ベンゾイル
517	メチル	ヘキシル	H	H	ベンゾイル
518	メチル	2-メチルヘンチル	H	H	ベンゾイル
519	メチル	オクチル	H	H	ベンゾイル
520	メチル	2-プロパニル	H	H	ベンゾイル
521	メチル	ゲラニル	H	H	ベンゾイル
522	ブチル	H	メチル	H	ベンゾイル
523	ブチル	H	ブチル	H	ベンゾイル
524	ブチル	H	ヘキシル	H	ベンゾイル
525	ブチル	H	3-メチル-2-ブテニル	H	ベンゾイル
526	ブチル	H	ゲラニル	H	ベンゾイル
527	ブチル	H	H	H	ベンゾイル

【0038】

【表 23】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
528	メチル	アセチル	メチル	H	シナモイル
529	メチル	アセチル	エチル	H	シナモイル
530	メチル	アセチル	ブチル	H	シナモイル
531	メチル	アセチル	ヘキシル	H	シナモイル
532	メチル	アセチル	3-メチル-2-ブチニル	H	シナモイル
533	メチル	アセチル	ゲラニル	H	シナモイル
534	メチル	アセチル	H	H	シナモイル
535	メチル	H	メチル	H	シナモイル
536	メチル	H	ブチル	H	シナモイル
537	メチル	H	ヘキシル	H	シナモイル
538	メチル	H	3-メチル-2-ブチニル	H	シナモイル
539	メチル	H	ゲラニル	H	シナモイル
540	メチル	H	H	H	シナモイル
541	メチル	メチル	メチル	H	3,5-ジメトキシ-4-ヒドロキシシナモイル
542	メチル	メチル	ブチル	H	3,5-ジメトキシ-4-ヒドロキシシナモイル
543	メチル	メチル	ヘキシル	H	3,5-ジメトキシ-4-ヒドロキシシナモイル
544	メチル	メチル	3-メチル-2-ブチニル	H	3,5-ジメトキシ-4-ヒドロキシシナモイル
545	メチル	メチル	ゲラニル	H	3,5-ジメトキシ-4-ヒドロキシシナモイル

【0039】

【表 24】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
546	メチル	メチル	H	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
547	メチル	イソブ <sup>o</sup> ロビ <sup>o</sup> ル	H	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
548	メチル	ブ <sup>o</sup> チル	H	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
549	メチル	ヘキシル	H	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
550	メチル	2-メチルヘ <sup>o</sup> ンチル	H	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
551	メチル	オクチル	H	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
552	メチル	2-ブ <sup>o</sup> ロベ <sup>o</sup> ニル	H	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
553	メチル	ケ <sup>o</sup> ラニル	H	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
554	メチル	H	メチル	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
555	メチル	H	ブ <sup>o</sup> チル	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
556	メチル	H	ヘキシル	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル
557	メチル	H	3-メチル-2-ブ <sup>o</sup> テニル	H	3,5-ジ <sup>o</sup> メトキシ-4- ヒト <sup>o</sup> ロキシシナモイル

【0040】

【表 25】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
558	メチル	H	ゲラニル	H	3, 5-ジメトキシ-4-ヒト <sup>*</sup> ロキシシナモイル
559	メチル	H	H	H	3, 5-ジメトキシ-4-ヒト <sup>*</sup> ロキシシナモイル
560	エチル	アセチル	メチル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メトキシシナモイル
561	エチル	アセチル	エチル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メトキシシナモイル
562	エチル	アセチル	ブチル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メトキシシナモイル
563	エチル	アセチル	ヘキシル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メトキシシナモイル
564	エチル	アセチル	3-メチル-2-ブチニル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メトキシシナモイル
565	エチル	アセチル	ゲラニル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メトキシシナモイル
566	エチル	アセチル	H	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メトキシシナモイル
567	エチル	ホルミル	メチル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メトキシシナモイル
568	エチル	ホルミル	ブチル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メトキシシナモイル
569	エチル	ホルミル	ヘキシル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メトキシシナモイル

【0041】

【表 26】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
570	エチル	ホルミル	3-メチル-2-ブテニル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
571	エチル	ホルミル	ゲラニル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
572	エチル	ホルミル	H	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
573	メチル	メチル	メチル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
574	メチル	メチル	ブチル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
575	メチル	メチル	ヘキシル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
576	メチル	メチル	3-メチル-2-ブテニル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
577	メチル	メチル	ゲラニル	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
578	メチル	メチル	H	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
579	メチル	イソプロピル	H	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
580	メチル	ブチル	H	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
581	メチル	ヘキシル	H	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル

【0042】

【表27】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
582	メチル	2-メチルヘンチル	H	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
583	メチル	オクチル	H	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
584	メチル	2-ブ <sup>*</sup> ロベ <sup>*</sup> ニル	H	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
585	メチル	ゲ <sup>*</sup> ラニル	H	H	4-ヒト <sup>*</sup> ロキシ-3-メト キシシナモイル
586	メチル	H	メチル	H	ヘンジ <sup>*</sup> ル
587	メチル	H	ブ <sup>*</sup> チル	H	ヘンジ <sup>*</sup> ル
588	メチル	H	ヘキシル	H	ヘンジ <sup>*</sup> ル
589	メチル	H	3-メチル-2-ブ <sup>*</sup> テニル	H	ヘンジ <sup>*</sup> ル
590	メチル	H	ゲ <sup>*</sup> ラニル	H	ヘンジ <sup>*</sup> ル
591	メチル	H	H	H	ヘンジ <sup>*</sup> ル
592	ブ <sup>*</sup> ロビ <sup>*</sup> ル	H	メチル	H	ヘンジ <sup>*</sup> ル
593	ブ <sup>*</sup> ロビ <sup>*</sup> ル	H	ブ <sup>*</sup> ロビ <sup>*</sup> ル	H	ヘンジ <sup>*</sup> ル
594	ブ <sup>*</sup> ロビ <sup>*</sup> ル	H	ブ <sup>*</sup> チル	H	ヘンジ <sup>*</sup> ル
595	ブ <sup>*</sup> ロビ <sup>*</sup> ル	H	テ <sup>*</sup> シル	H	ヘンジ <sup>*</sup> ル
596	メチル	メチル	H	H	2-ブ <sup>*</sup> ロベ <sup>*</sup> ニル
597	メチル	イソブ <sup>*</sup> ロビ <sup>*</sup> ル	H	H	2-ブ <sup>*</sup> ロベ <sup>*</sup> ニル
598	メチル	ブ <sup>*</sup> チル	H	H	2-ブ <sup>*</sup> ロベ <sup>*</sup> ニル
599	メチル	ヘキシル	H	H	2-ブ <sup>*</sup> ロベ <sup>*</sup> ニル
600	メチル	2-メチルヘンチル	H	H	2-ブ <sup>*</sup> ロベ <sup>*</sup> ニル
601	メチル	オクチル	H	H	2-ブ <sup>*</sup> ロベ <sup>*</sup> ニル

【0043】

【表 28】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
602	メチル	2-プロペニル	H	H	2-プロペニル
603	メチル	ゲラニル	H	H	2-プロペニル
604	メチル	H	メチル	H	2-プロペニル
605	メチル	H	ブチル	H	2-プロペニル
606	メチル	H	ヘキシル	H	2-プロペニル
607	メチル	H	3-メチル-2-ブテニル	H	2-プロペニル
608	メチル	H	ゲラニル	H	2-プロペニル
609	メチル	H	H	H	2-プロペニル
610	メチル	H	メチル	H	2-プロペニル
611	メチル	H	プロピル	H	2-プロペニル
612	メチル	H	ブチル	H	2-プロペニル
613	メチル	H	デシル	H	2-プロペニル
614	メチル	メチル	H	H	ゲラニル
615	メチル	イソプロピル	H	H	ゲラニル
616	メチル	ブチル	H	H	ゲラニル
617	メチル	ヘキシル	H	H	ゲラニル
618	メチル	2-メチルヘンチル	H	H	ゲラニル
619	メチル	オクチル	H	H	ゲラニル
620	メチル	2-プロペニル	H	H	ゲラニル
621	メチル	ゲラニル	H	H	ゲラニル
622	メチル	H	メチル	H	ゲラニル
623	メチル	H	ブチル	H	ゲラニル
624	メチル	H	ヘキシル	H	ゲラニル



【0044】

【表29】

化合物番号	R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	R <sub>3</sub>	R <sub>4</sub>	R <sub>5</sub>
625	メチル	H	3-メチル-2-ブテニル	H	ケラニル
626	メチル	H	ケラニル	H	ケラニル
627	メチル	H	H	H	ケラニル
628	メチル	H	メチル	H	ケラニル
629	メチル	H	プロピル	H	ケラニル
630	メチル	H	ブチル	H	ケラニル

【0045】

また、本発明には、これら化合物の生理学的に許容される塩も含まれる。

ここでいう生理学的に許容される塩とは、上記に示される化合物の中で、水酸基を有するもの、特に3位及び／又は4位に水酸基を有するものについては、毒性を有さないアルカリ性付加塩であり、例えば、ナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩、カルシウム塩、アンモニウム塩、無毒性のアミン塩等の無毒の塩が挙げられる。これらは公知の慣用の方法により製造できる。

また水酸基を有さないものについては、芳香環のアミノ基を鉱酸、例えば、塩酸、硫酸、リン酸により、または各種の有機酸、例えば、酢酸、プロピオン酸、コハク酸、酒石酸、マレイン酸、フマル酸、スルホン酸類としてメタンスルホン酸等により無毒性の付加塩としたものが挙げられる。これらは公知の慣用の方法により製造できる。

【0046】

本発明の7-アミノキノリノン誘導体及びその生理学的に許容される塩は、後述の実施例で示すように、低毒性であり、且つ慢性閉塞性肺疾患治療剤として種々の慢性閉塞性肺疾患の治療又は予防に極めて有用である。

本発明にいう慢性閉塞性肺疾患とは、慢性気管支炎および肺気腫を含む肺疾患である。慢性閉塞性肺疾患は一般的に進行性の非可逆的気道閉塞として特徴づけられ、多くの場合、気道過敏性を伴い、一部可逆性のものもある。慢性気管支炎

は、連続した2年間の各年において3カ月以上続く慢性湿性咳により特徴づけられる。肺気腫は、肺胞壁の破壊性変化を伴い、明らかな線維症のない、終末細気管支より遠位の気腔の異常な永続的腫大である。破壊とは、呼吸性気腔の不規則な腫大として定義され、肺細葉とその成分の規則正しい外観が破壊され、失われることもある。

上記の如く、慢性閉塞性肺疾患は非可逆性の気道閉塞を特徴とし、可逆性の気道閉塞性疾患である喘息とは異なる疾患概念をもつ。更には、気管支喘息に対する薬物療法として、世界的な喘息治療法ガイドラインであるGuideline for the Diagnosis and Management of Asthma (NHLBI, 2002) において、吸入ステロイドが第一選択薬として推奨され、優れた有用性が確認されているが、慢性閉塞性肺疾患に対しては、同様のグローバルガイドラインであるGlobal initiative for chronic obstructive lung disease (GOLD; NHLBI/WHO, 1998) において、ステロイドの効果は限定的であり、その使用をあまり推奨していない。このように慢性閉塞性肺疾患と気管支喘息では薬物に対する反応性も異なる。

慢性閉塞性肺疾患に対する主な治療は、抗コリン剤および $\beta$ 受容体作動薬などの気管支の拡張を促す薬物を使用し、一時的に気道閉塞状態を緩和する対症療法が行われている。最近では、長時間作用型の抗コリン剤および $\beta$ 受容体作動薬の開発研究が行われているが、いずれも対症療法の範疇である。慢性閉塞性肺疾患のリスク因子は、喫煙および大気汚染による有害微粒子であり、これらの長期間暴露により末梢気道および肺胞において慢性的な炎症状態を持続することが発症原因と考えられている。即ち、前述のGOLDでは、慢性閉塞性肺疾患では肺における好中球性炎症がみられ、その原因・進展因子として重要なものは、プロテアーゼとプロテアーゼインヒビターの不均衡および酸化ストレスによる炎症であると明確に述べられている。しかしながら、これらの炎症を緩和して慢性閉塞性肺疾患を治療し得る薬剤は、現在上市されていない。

本発明者らは、慢性閉塞性肺疾患の重要な発症因子といわれる酸化ストレスによる気道炎症に着目し、慢性閉塞性肺疾患に相当する動物モデルを作製し、当該モデルにおける気道炎症を治療し得る薬物を鋭意探索した。即ち、GOLDにおいて延べられている生体内で生成する強力な酸化物であるパーオキシナイトライトを

気道に暴露し、気道炎症を誘発したモデルにおいて強力な治療効果を示す化合物を見出し、本発明を完成するに至った。

本発明化合物を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤は、経口（内服又は吸入）又は非経口投与（例えば静脈内投与、皮下投与、経皮投与又は直腸内投与等）することが出来、投与に際してはそれぞれの投与法に適した製剤形態に調製することが出来る。

かかる製剤は、その用途に応じて錠剤、カプセル剤、顆粒剤、細粒剤、散剤、トローチ剤、舌下錠、坐剤、軟膏剤、注射剤、乳剤、懸濁剤、シロップ剤等の製剤形体に調製することが出来る。

これらの調製に際しては、例えばこの種の薬剤に通常使用されている無毒の賦形剤、結合剤、崩壊剤、滑沢剤、保存剤、酸化防止剤、等張化剤、緩衝剤、コーティング剤、矯味剤、溶解補助剤、基剤、分散剤、安定化剤、着色剤等の添加剤を使用して公知の方法により製剤化することが出来る。これらの無毒性の添加剤の具体例を以下に列挙する。

まず、賦形剤としては、でんぷん及びその誘導体（デキストリン、カルボキシメチルスターチ等）、セルロース及びその誘導体（メチルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース等）、糖類（乳糖、白等、ブドウ糖等）、ケイ酸及びケイ酸塩類（天然ケイ酸アルミニウム、ケイ酸マグネシウム）、炭酸塩（炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、炭酸水素ナトリウム等）、水酸化アルミニウム・マグネシウム、合成ヒドロタルサイト、ポリオキシエチレン誘導体、モノステアリン酸グリセリン、モノオレイン酸ソルビタン等が挙げられる。

結合剤としては、でんぷん及びその誘導体（アルファー化デンプン、デキストリン等）、セルロース及びその誘導体（エチルセルロース、カルボキシメチルセルロースナトリウム、ヒドロキシプロピルメチルセルロース等）、アラビアゴム、トラガント、ゼラチン、糖類（ブドウ糖、白糖等）、エタノール、ポリビニルアルコール等が挙げられる。

崩壊剤としては、でんぷん及びその誘導体（カルボキシメチルスターチ、ヒドロキシプロピルスターチ等）、セルロース及びその誘導体（カルボキシメチルセルロースナトリウム、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース等

）、炭酸塩（炭酸カルシウム、炭酸水素カルシウム等）、トラガント、ゼラチン、寒天等が挙げられる。

滑沢剤としては、ステアリン酸、ステアリン酸カルシウム、ステアリン酸マグネシウム、タルク、ケイ酸及びその塩類（軽質無水ケイ酸、天然ケイ酸アルミニウム等）、酸化チタン、リン酸水素カルシウム、乾燥水酸化アルミニウムゲル、マクロゴール等が挙げられる。

保存剤としては、パラオキシ安息香酸エステル類、亜硫酸塩類（亜硫酸ナトリウム、ピロ亜硫酸ナトリウム等）、リン酸塩類（リン酸ナトリウム、ポリリン酸カルシウム、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム等）、アルコール類（クロロブタノール、ベンジルアルコール等）、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、フェノール、クレゾール、クロロクレゾール、デヒドロ酢酸、デヒドロ酢酸ナトリウム、ソルビン酸グリセリン、糖類等が挙げられる。

酸化防止剤としては、亜硫酸塩類（亜硫酸ナトリウム、亜硫酸水素ナトリウム等）、ロンガリット、エリソルビン酸、L-アスコルビン酸、システイン、チオグリセロール、ブチルヒドロキシアニソール、ジブチルヒドロキシトルエン、没食子酸プロピル、アスコルビン酸パルミテート、d l- $\alpha$ -トコフェロール等が挙げられる。

等張化剤としては、塩化ナトリウム、硝酸ナトリウム、硝酸カリウム、デキストリン、グリセリン、ブドウ糖等が挙げられる。また緩衝剤としては、炭酸ナトリウム、塩酸、ホウ酸、リン酸塩（リン酸水素ナトリウム等）等が挙げられる。

コーティング剤としては、セルロース誘導体（ヒドロキシプロピルセルロース、酢酸フタル酸セルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロースフタレート等）、セラック、ポリビニルピロリドン、ポリビニルピリジン類（ポリ-2-ビニルピリジン、ポリ-2-ビニル-5-エチルピリジン等）、ポリビニルアセチルジエチルアミノアセテート、ポリビニルアルコールフタレート、メタアクリレート・メタアクリル酸共重合体等が挙げられる。

矯味剤としては、糖類（ブドウ糖、白糖、乳糖等）、サッカリンナトリウム、糖アルコール類等が挙げられる。また溶解補助剤としては、エチレンジアミン、ニコチン酸アミド、サッカリンナトリウム、クエン酸、クエン酸塩類、安息香酸

ナトリウム、石鹼類、ポリビニルピロリドン、ポリソルベート類、ソルビタン脂肪酸エステル類、グリセリン、ポリブレングリコール、ベンジルアルコール等が挙げられる。

基剤としては、脂肪類（豚脂等）、植物油（オリーブ油、ゴマ油等）、動物油、ラノリン酸、ワセリン、パラフィン、ロウ、樹脂、ベントナイト、グリセリン、グリコール油、高級アルコール類（ステアリルアルコール、セタノール等）等が挙げられる。

分散剤として、アラビアゴム、トラガント、セルロース誘導体（メチルセルロース等）、ステアリン酸ポリエステル類、セスキオレイン酸ソルビタン、モノステアリン酸アルミニウム、アルギン酸ナトリウム、ポリソルベート類、ソルビタン脂肪酸エステル類等が挙げられる。また安定化剤としては、亜硫酸塩類（亜硫酸水素ナトリウム等）、窒素、二酸化炭素等が挙げられる。

#### 【0047】

また、かかる製剤中における本発明化合物の含有量は、その剤型に応じて異なるが、一般に0.01～100重量%の濃度で含有していることが望ましい。

本発明の慢性閉塞性肺疾患治療剤の投与量は、対象とする人間をはじめとする温血動物の種類、症状の軽重、医師の判断等により広範囲に変えることが出来るが、一般に有効成分として、経口投与の場合は、体重1kg当たり1日に0.01～50mg、好ましくは、0.05～10mgである。

また非経口投与の場合は、体重1kg当たり1日に0.01～10mg、好ましくは0.01～5mg投与することが好ましい。また、上記投与量は1日1回又は数回に分けて投与することが出来、患者の症状の軽重、医師の診断に応じて適宜変えることが出来る。

#### 【0048】

##### 【実施例】

次に、実施例によって本発明を具体的に説明するが、もとより本実施例の範囲により、本発明の範囲が限定されるものではない。

#### 【0049】

（実施例1） マウス急性毒性試験

本実施例は、本発明のキノリノン誘導体の安全性を確認するため行ったものである。以下に試験方法を説明する。

(試験方法)

マウス用胃ゾンデを用いて化合物 32、53、55、56、58、87、147、173、181、204、236、276、303、309、330、359、396、401、459、514、519、546～556、581 の 7-アミノキノリノン誘導体の 1000 及び 2000 mg/kg を 1 群 5 匹のマウス (ICR 系雄性体重 20～25 g) に強制経口投与した。

経口投与後、ケージ内にて 7 日間飼育し、死亡動物の有無及び一般状態を観察し、観察終了時のマウスの生存率より 50% 致死量 (LD<sub>50</sub>: mg/kg) を推定した。この結果、試験した全てのアミノキノリノン誘導体の LD<sub>50</sub> は 1000 mg/kg 以上であり、アミノキノリノン誘導体は極めて安全性が高いことが判明した。

【0050】

(実施例 2)

本実施例は、本発明の 7-アミノキノリノン誘導体のモルモットにおける気道過敏性亢進モデルにおける薬理効果を確認するために行ったものである。以下に試験方法を説明する。

(気道過敏性亢進モデルの作製)

モルモットは 18 時間以上絶食状態にし、パーオキシナイトライト投与 1 時間前に、試験物質 (30 mg/kg) を経口投与し、頸部をエーテル麻酔下で切開し、気管を露出させた。気管内に 1 mmol/L パーオキシナイトライト 0.1 mL を空気で押し込むように肺側に投与し、投与後、切開部を縫合して消毒した。

(ヒスタミンに対する気道過敏性の測定)

気道過敏性の測定は、モデル作製日を 0 日目として、5 日目に実施し、モルモットは 18 時間以上絶食状態にした。肺抵抗の測定 (lung resistance; RLung) は R. E. Giles らの方法 (R.E.Giles, M.P.Finkel and J.Mazurowski: Use of an Analog On-Line Computer for the Evaluation of

Pulmonary Resistance and Dynamic Compliance in the Anesthetized Dog. Arch. Int. Pharmacodyn. 194, 213-222 (1971)) に準拠して行った。すなわち、商標名ネンブタール (40 mg/kg、i. v.、ペントバルビタールナトリウム) で麻酔し、食道、気管及び頸静脈 (ヒスタミン投与用) にカニュレーションを行い、食道及び気管カニュレを人工呼吸器 (換気量 6 mL/kg、換気回数 60 回/分、SN-480-7) に接続し、フローセンサー (Validyle DF45F (流速用) 及び DP45P (圧力用) に接続) を介して、総合呼吸機能測定システム (PULMOS-II; M. I. P. S) により生理食塩水及びヒスタミン (2、4、8、16 および 32  $\mu$ g/kg) 静脈内投与 (投与液量 0.1 mL/kg) 後の R L u n g を測定した。投与前の R L u n g は測定開始後 20 呼吸から 3 呼吸分、生理食塩液投与の R L u n g は生理食塩水投与後 5 呼吸から 3 呼吸分、ヒスタミン投与による R L u n g は ヒスタミン投与後の 20 呼吸以内の最大気道抵抗値とその前後の計 3 呼吸分の肺抵抗の平均値とした。(なお、測定中の動物の胎動等による R L u n g の異常値はこれらの計算には採用しない)

なお、肺抵抗の増加率は以下の式で算出した。

$$\text{肺抵抗の増加率(\%)} = ([\text{ヒスタミン投与後の R L u n g}] - [\text{投与前の R L u n g}]) / [\text{投与前の R L u n g}] \times 100$$

【0051】

【表30】

表30 肺抵抗増加率 (%)

化合物番号	増加率 (%)	化合物	増加率 (%)
32	435	359	431
53	440	396	421
55	425	401	420
56	434	459	427
58	423	514	434
87	432	519	440
147	429	546	422
173	430	549	423
181	425	551	416
204	439	553	417
236	428	556	426
276	430	581	430
303	427	コントロール群	759
309	435	無刺激群	382
330	417		

【0052】

以上の結果から、本発明の7-アミノキノリノン誘導体は、試験物質を投与しないコントロール群に対して、無刺激群とほぼ同等の程度まで抵抗を抑制することが確認され、パーオキシナイトライトの吸入により引き起こされた肺抵抗の増加を抑制することが明らかである。

【0053】

(実施例3)

本実施例は、本発明における7-アミノキノリノン誘導体のパーオキシナイトライトの消去能を確認するため、ジヒドロローダミン123を用いたパーオキシナ



イトライト定量法を試験系に用いて、試験物質の抗酸化作用を評価したものであり、本法は、ニトリックオキシド、生物と化学、第1巻、145-157、1997年 (NITRIC OXIDE: Biology and Chemistry Vol. 1, 145-157, 1997) 記載の方法である。

#### 【0054】

以下に試験方法を説明する。

(試験物質、試薬の調製)

##### 1. 試験物質の調製

試験物質約10mgを秤量し、10% Tween 80 溶液で溶解させ、 $5 \times 10^{-3} \text{ mol/L}$ に調製した。次いで、 $0.1 \text{ mol/L}$ リン酸緩衝液 ( $\text{pH}=7.4$ )で $5 \times 10^{-4} \text{ mol/L}$ に希釈した。更に1% Tween 80 含有リン酸緩衝液で段階的に希釈し、目的の試験物質液濃度に調製した。調整は、用時に行った。試験物質の最終濃度は、 $3 \times 10^{-6}$ 、 $1 \times 10^{-6}$ 、 $3 \times 10^{-7}$ 、 $1 \times 10^{-7}$ 、 $3 \times 10^{-8} \text{ mol/L}$ となるように調整を行った。

#### 【0055】

##### 2. パーオキシナイトライト溶液の調製

###### 1) パーオキシナイトライト濃度の測定

パーオキシナイトライト溶液 ((株) 同仁化学研究所製)  $20 \mu\text{L}$ に、 $0.1 \text{ mol/L}$  水酸化ナトリウムを $1980 \mu\text{L}$ 加え100倍に希釈した。紫外可視分光光度計を用いて300nm付近の極大吸収波長の吸光度を測定し、以下の式にて濃度を算出した。

$$\text{濃度}(\text{mmol/L}) = (\text{吸光度} / 1670) \times 100 \times 1000$$

###### 2) $100 \mu\text{mol/L}$ パーオキシナイトライト溶液の調製

前項で算出した濃度を基に $0.1 \text{ mol/L}$  水酸化ナトリウム溶液で希釈を行い、 $10 \text{ mmol/L}$ に調製した。更に、 $0.1 \text{ mol/L}$  水酸化ナトリウム溶液 $990 \mu\text{L}$ をエッペンチューブ1.5mLにとり、 $10 \text{ mmol/L}$ に調製した溶液 $10 \mu\text{L}$ を加え、 $100 \mu\text{mol/L}$ 溶液を調製した。

#### 【0056】

##### 3. ジヒドロローダミン123溶液の調製

## 1) 25 mmol/L ジヒドロローダミン123 保存溶液

ジヒドロローダミン123 (Molecular Probes, Inc. 製) のアンプルを開封しジメチルスルフォキシド1.155 mLを加え溶解させ、25 mmol/Lの濃度に調製した。この溶液を20  $\mu$ Lずつ分注後、バイオメディアカルフリーザー (約-20℃) に保存し、保存溶液とした。

## 2) 500 nmol/L ジヒドロローダミン123 溶液の調製

0.02% Tween 80含有0.1 mol/L リン酸緩衝液490  $\mu$ L に解凍した25 mmol/L ジヒドロローダミン123 保存溶液10  $\mu$ Lを加え、500  $\mu$ mol/Lとした。調製した溶液を0.1 mol/Lリン酸緩衝液 (pH=7.4) にて1000倍に希釈し、500 nmol/L ジヒドロローダミン123 溶液を調製した。

## 【0057】

(パーオキシナイトライト消去能の測定)

## 1. 反応操作

攪拌子を入れた3.5 mL容褐色バイアル瓶に500 nmol/L ジヒドロローダミン123 溶液1470  $\mu$ Lを添加した。次いで、試験物質液を15  $\mu$ L添加した。ブランクおよびコントロール群には試験物質液の溶媒である1% Tween 80含有0.1 mol/L リン酸緩衝液を15  $\mu$ L添加した。添加後、スターラーを用いて30分間攪拌した。

攪拌状態のまま、100  $\mu$ mol/L パーオキシナイトライト123 溶液を15  $\mu$ L添加した。ブランク群には0.1 mol/L 水酸化ナトリウム溶液を15  $\mu$ L添加した。15分間攪拌後、蛍光強度を測定した。

## 【0058】

## 2. 蛍光強度測定

分光蛍光光度計を用いて以下の測定条件で反応液の蛍光強度を測定した。

励起波長: 500 nm、蛍光波長: 536 nm、測定回数: 1回、レスポンス: 1 sec、ホットマル電圧: Low、励起側バンド幅: 10 nm、蛍光側バンド幅: 10 nm

## 【0059】

### 3. ジヒドロローダミン 123 酸化率の算出

以下の計算式により、コントロールのジヒドロローダミン 123 酸化率を 100 として、試験物質を添加したときのジヒドロローダミン 123 酸化率を算出した。

ジヒドロローダミン 123 酸化率(%) = (各群の測定値 - ブランクの測定値) / (コントロールの測定値 - ブランクの測定値) × 100

【0060】

### 4. 50%酸化阻害濃度 (IC<sub>50</sub>) の算出

酸化率 50% を挟む 2 点から直線を求め、50%酸化濃度、すなわち 50%酸化阻害濃度 (IC<sub>50</sub>) を算出した。

結果を以下の表に示す。

【0061】

【表 3 1】

表 3 1      50%酸化阻害濃度 (IC<sub>50</sub>)

化合物番号	濃度 ( $\mu\text{mol/L}$ )	化合物	濃度 ( $\mu\text{mol/L}$ )
32	0.96	330	0.79
53	0.88	359	0.85
55	0.96	396	0.94
56	1.05	401	1.01
58	0.81	459	0.94
87	0.84	514	0.91
147	0.79	519	0.83
173	0.89	546	0.79
181	0.94	549	0.80
204	0.89	551	0.71
236	0.88	553	0.98
276	0.82	556	0.89
303	0.84	581	0.76
309	0.80		

## 【0062】

以上の結果から、本発明の7-アミノキノリノン誘導体は、何れも $1\mu\text{mol/L}$ 以下か、それ付近の低濃度での50%酸化阻害濃度を示し、パーオキシナイトライトによる酸化反応を抑制することが確認された。

## 【0063】

(実施例4) (5%散剤)

本発明化合物            50mg

乳糖                    950mg

1000mg

化合物32、及び53の散剤の製造例を示す。乳鉢で、本発明化合物を粉碎し、それに乳糖を添加し、乳棒で粉碎しながら、充分混合し、化合物32及び53の5%散剤を製造した。

## 【0064】

(実施例5) (10%散剤)

本発明化合物	100mg
乳糖	900mg

---

1000mg

化合物236、及び276の散剤の製造例を示す。実施例4と同様の方法で化合物236、及び276の10%散剤を製造した。

## 【0065】

(実施例6) (10%顆粒剤)

本発明化合物	300mg
乳糖	2000mg
でんぷん	670mg
ゼラチン	30mg

---

3000mg

化合物303、309、330、及び359の顆粒剤の製造例を示す。乳鉢内で、本発明化合物を等量のでんぷんと混合粉碎した。これに乳糖、でんぷんの残分を加え混合した。別にゼラチン30mgに精製水1mlを加えて、加熱溶解し、冷後かき混ぜながらこれにエタノール1mlを加え、ゼラチン液としたものを調製し、先の混合物にゼラチン液を添加練合し、造粒した後、乾燥して整粒し、化合物303、309、330、及び359の顆粒剤を製造した。

## 【0066】

(実施例7) (5mg錠)

本発明化合物	5mg
乳糖	62mg
でんぷん	30mg
タルク	2mg
ステアリン酸マグネシウム	1mg

## 100mg/錠

化合物 514、及び 519 の錠剤の製造例を示す。乳鉢内で上記配合の 20 倍量を用いて 5mg 錠剤の製造をした。すなわち、本発明化合物 100mg の結晶を粉碎し、それに乳糖及びでんぷんを加え混合する。10% でんぷんのりを上記の配合体に加え練合し、造粒する。乾燥後、タルク及びステアリン酸マグネシウムを混合し、常法により打錠して、化合物 514、及び 519 の錠剤を製造した。

## 【0067】

(実施例 8) (10mg カプセル剤)

本発明化合物	300mg
乳糖	2000mg
でんぷん	670mg
ゼラチン	30mg

## 3000mg

化合物 546、549、551、及び 553 のカプセル剤の製造例を示す。実施例 6 と同様の方法で顆粒を製造し、該顆粒 100mg ずつをカプセルに充填して、化合物 546、549、551、及び 553 のカプセル剤を製造した。

## 【0068】

## 【発明の効果】

本発明は、7-アミノキノリノン誘導体及又は／及びその生理学的に許容される塩を有効成分とすることにより安全性が高く、しかも慢性閉塞性肺疾患に対して極めて優れた薬効を示す慢性閉塞性肺疾患治療剤を提供することができるものである。

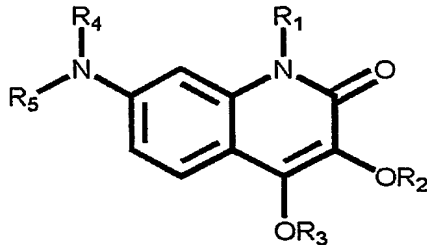
【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 安全性が高く、慢性閉塞性肺疾患に対して有効で、しかも極めて優れた薬効を示す慢性閉塞性肺疾患治療剤を提供することにある。

【解決手段】 一般式 (I)

【化1】



(式中、 $R_1$  は水素原子、又はアルキル基であり、 $R_2$  と  $R_3$  は、各々水素原子、アシル基、アルキル基、又はアルケニル基から選ばれる基であり、 $R_4$  と  $R_5$  は、各々、水素原子、アシル基、アルキル基、アルケニル基、又はアラルキル基から選ばれる基である。)

で表される 7-アミノキノリノン誘導体、又は／及び、その生理学的に許容される塩を有効成分とする慢性閉塞性肺疾患治療剤。

【選択図】 なし

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 2 0 3 6 9 9
受付番号	5 0 3 0 1 2 6 2 4 7 3
書類名	特許願
担当官	第五担当上席 0 0 9 4
作成日	平成 1 5 年 7 月 3 1 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】 平成15年 7月30日



特願 2 0 0 3 - 2 0 3 6 9 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 2 8 8 6 ]

1. 変更新月日

1 9 9 0 年 8 月 1 7 日

[ 変更理由 ]

新規登録

住 所

東京都板橋区坂下 3 丁目 3 5 番 5 8 号

氏 名

大日本インキ化学工業株式会社